

自分たちの地域は 自分たちで守っていく。

～地域農業のこれから～ 真室川町 ^{はるき}春木地区

^{はるき}春木地区は真室川町の北西部に位置し、一級河川最上川水系中田春木川の左岸に広がる山間地域だ。春木地区では平成30年から、28.9haのほ場整備事業が始まり、現在も整備中である。

地区では事業が始まる前の平成28年に、地区の農家9戸で構成する『農事組合法人はるきの』を設立。法人設立によって集積が加速し、法人への集積率は93.1%に達した。

『農事組合法人はるきの』の代表である庄司稔さんは、「法人化、ほ場整備事業の原点にはワークショップがある。」と語る。



地域の転機

春木地区では、古くから米や飼料用作物の栽培がされてきたが、昨今、農業者の高齢化や農業水利施設の老朽化によって、地域農業の維持が困難な状況であった。そこで春木地区では、平成24年からほ場整備の検討会や地域の将来を考えるワークショップを開催してきた。

その会の回数を重ねるごとに、地域の存続に危機感を覚えたという。庄司さんは、「以前は、小規模農業者が、農業を継続できなくなったとき、農地は他の農業者に依頼すれば大丈夫と思っていた。しかし、実際には農業者は減少しており、ひたひたきてきている状況にあると気づいた。自分たちの農地は自分たちで守っていかねばならない。」と語る。

小さな田んぼから作りやすい田んぼへ、考え方が変わっていった転機だったという。



『農事組合法人はるきの』
代表 庄司 稔 さん



ワークショップの様子 (H27)

農家が寂しくない地域

農業だけではなく地域生活の営みの一部になっている水路や農道は、草刈りなどの維持管理が欠かせない。ワークショップ前は、農家は各々保全活動を行ってきただけで、地区に住む農業者以外の人々の参加はまばらであった。しかしワークショップ後には、年4回の共同保全活動に地域のみなが参加してくれるようになった。

ワークショップ後の 共同保全活動の様子



草刈りの様子



農地法面の草刈り



側溝の土砂撤去作業

将来の農業

『農事組合法人はるきの』では将来の農業経営を見据え、スマート農業や機械の大型化にも力を入れていく。ほ場整備に合わせて導入した大型のトラクターやコンバインは機械販売元でGPS管理され、故障や盗難等があれば保有者に連絡が来るようになっていく。実際に連絡が来たこともあり、大事になる前に点検してもらえたとのこと。

またドローンで田を撮影し、農地全体での成長のばらつきを可視化できる育成診断や、ドローンでの薬剤散布などにも積極的に取り組んでいる。



ドローンでの薬剤散布

育成診断